



<薔薇と妖精>

深紅の薔薇が語りかける
すこし寒いのです
あまりにも心が冷えてしまったのです
はやく私を見つけて下さい
朝の光が眩しいほど
透き通るこの空気の中で
今日もひっそりと咲いています
まるで私の心を映すように
もう愛などにはお逢い出来ないと思ってしまったから
もう恋などにはたどりつけないと思ってしまったから
私の想いを伝えてくださいと
薔薇の妖精にお願いしました
愛も恋も遠い昔に置き忘れて来てしまったから
私を避けて行ってしまったのでしょうか
寂しすぎて冬の寒さに負けてしまいそう
いいえあの日貴方は
私のすべてに愛を語りかけてくれた
私に恋を感じさせてくれた
この私に見える小さな世界を
艶やかに輝かせて
ひとりの幸せな時を迎えて
琥珀色の感情を積み重ねた
眠る私に優しくキスをする天使のように
パリの街にたたずむ美しい人

<虚しくなる>

友の心無い言葉に
さて、どうすればいい
又してもこの頭が
からっぽになってしまった
でも、以前のように
怒ったり、焦ったりはしない
ゆっくりとゆっくりと
過ぎてゆく時を楽しみ
流れ行く雲を眺めて
大切な時間を過しましょうか
そんな私の前に
春だって秋だってやって来ましたね
ほらこんなに
暖かな陽射しが
この冷えた心と体を
ゆっくりと温めてくれてる
さあ～今日は
何を語りましょうか

<待つ想い>

想い人は遠くの空の下で
木枯らし舞う異国の街角で
何を思い過ごしているのでしょうか

私はひたすら貴方を待ちながら
私は冬の寒さに心が凍えそう

こんな辛い想いで
いつまで待っていたら
出逢えるのだろうか

こんな辛すぎる日々が苦しくて
私はいっそ消えましょうか
イエイエそれは出来ません

美しき貴方の強い眼差しが
いつも私をみつめてくださるから

<雲上人>

いつか見た
赤く銀色の虹
まだ明けきれぬ黎明
それは夢の中で私をいざなう
幻を見る

めまい、頭痛、耳鳴り
そのどれも私を責めて
いつ別の世界の現実を見る

それはあまりにも
遠すぎる雲の上を歩く
閉ざされた私の世界

あの赤くそめる銀色の虹に
美しき貴方は何度
出会っているのだろうか

幾千の時を越えて
つむぎだす感動の世界が
美しき貴方の舞台

私は願う
あの銀色の輝きに
思いが届くことを

ポエム

<http://p.booklog.jp/book/36319>

著者：みしまゆみこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/hsa33712/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/36319>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/36319>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.